

海外感染症流行情報 2015年4月号

・アジアでのデング熱流行

東南アジアでデング熱の患者数が徐々に増加しています。4月上旬までの各国の患者数は、マレーシア35,000人、フィリピン19,000人、ベトナム9,000人、シンガポール2,000人で、今のところ例年並みの数になっています(WHO西太平洋事務局 2015-4/21)。昨年、多くの患者が発生した中国の広東省では、今のところ目立った流行はみられていません。アジア各地の流行はこれから本格的になるため、引き続き警戒が必要です。

・中国での鳥インフルエンザA(H7N9)の流行

中国では昨年末から鳥インフルエンザA(H7N9)の第三波の流行がみられています。2014年11月～2015年3月の患者数は190人で、このうち81人が死亡しました(外務省海外安全ホームページ 2015-4/17)。地域別では広東省や浙江省などで患者発生が多く、香港でも広東省での感染を疑う例が3人発生しました。なお、4月以降は患者発生が鎮静化している模様です。

・ネパールの狂犬病

ネパールでは2014年6月から9人の狂犬病患者が発生しています(英国Fit For Travel 2015-4/16)。最近、ネパール国内では狂犬病の発病予防に使う免疫グロブリンが不足している模様です。このため、ネパールに長期滞在する場合は事前に狂犬病ワクチンの接種を受けておくことを推奨します。事前にワクチンを受けておけば、動物に咬まれ後に免疫グロブリンを使用せずすみずみます。なお、4月25日、ネパールで発生した地震の影響で、狂犬病の流行が拡大する可能性があります。現地に国際協力などで滞在する際には、出国前に狂犬病ワクチンの接種を受けておくようにしましょう。

・エジプトで鳥インフルエンザA(H5N1)の患者数増加

エジプトで昨年末から発生している鳥インフルエンザA(H5N1)の流行は、さらに拡大しています。患者数は今年になり125人(33人死亡)で、3月だけで30人の患者が発生しました(WHO東地中海事務局 2015-4/9)。患者の多くは10歳未満の小児ですが、死亡は10歳以上で多くなっています(WHO GAR 2015-3/31)。今回の患者数増加は、昨年夏から新たな系統のA(H5N1)ウイルスが鳥の間で流行するようになったためと考えられています(Eurosurveillance 2015-4-2)。

・アフリカ東部で腸チフスが流行

アフリカ東部のウガンダで腸チフスが流行しています。首都カンパラなどで4月中旬までに12,000人の患者が発生しました(米国CDC 2015-4/20)。隣国のタンザニアでもインド洋沿岸のザンジバルで腸チフスの流行が発生している模様です(英国Fit For Travel 2015-4/20)。流行地域に滞在する際には腸チフスワクチンの接種を推奨します。

・ドイツでの麻疹流行

ドイツのベルリン周辺で発生していた麻疹の流行はさらに拡大しており、3月までに950人の患者が確認されました(米国 CDC 2015-4/20)。日本では20歳代後半～30歳代の世代で麻疹の抵抗力が弱いとされており、この世代が流行地域に滞在する際には麻疹ワクチンの接種を受けておくことを推奨します。

・ペルーでの黄熱患者発生

ペルーでは今年になり3月末までに9人の黄熱患者(3人死亡)が確認されました(英国NaTHNaC Travellers 2015-4/16)。このうち1名はチチカカ湖近郊のプーノで感染したケースです。プーノは日本人旅行者が訪れることもある町ですが、標高2300m以下では黄熱のリスクがあるため、滞在する際には黄熱ワクチンの接種を推奨します。

・ブラジルでデング熱、チクングニア熱が流行

ブラジル南部は雨季を迎えており、デング熱患者数が増加しています。3月末までに

患者数は22万人に達しており、サンパウロ州やゴイアス州(首都ブラジリア近郊)で患者発生が多くなっています(米国CDC 2015-4/20)。また、中米で拡大中のチクングニア熱の流行がブラジルにも波及しており、全土で5000人以上の患者が確認されています(汎米州保健機構PAHO 2015-4/7)。いずれもネッタイシマカに媒介される感染症ですが、現地滞在中は蚊に刺されないよう十分にご注意ください。